

## 令和5年度 第4回 会津若松市中小企業・小規模企業 未来会議 要旨

日時：令和6年3月19日（火）10：00～12：00

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室6

### 1 開会

### 2 協議

会津大学短期大学部 木谷准教授を座長として進行する。

#### ① オブザーバーより（市の人口減少対策について）

#### ② 情報共有（最近の状況や課題、各団体の取り組みについて）

・会津短大の進路決定状況は全体で91.2%、6割程度が県内。例年とほぼ同じ水準で就職の傾向としてもあまり変わらない。

・商工会議所青年部では、12月2日にジュニアエコノミーカレッジの納税式・表彰式・修了証書授与式を開催。納税式では、販売実践で得た利益を仮想税金として市長へ寄付し、参加者64名に修了証書を授与。保護者からの声を踏まえ来年度も開催していく予定。

令和6年度に県の青年部連合会事業の会員大会が会津若松にて開催。令和7年度には40周年を迎え、県の事務局が会津若松となる。

・同友会では人手不足を解決するためDXの勉強会をしており、成果を上げる機運が出てきた。

会津大学の学生と地元企業を繋いで企業の困りごとを学生が支援するなどの接点作りをしている。

・青年会議所では市商工課のマチイクプロジェクトにて商店街や公園の利活用推進に取り組んでおり、中心地に人が出やすい環境の仕組み作り実施していく。

・商工会議所では会員の退会が多くなっている。高齢化や経営不振などによる廃業が理由だが、最低賃金の引上げにより経営が圧迫されていることも多い。

確定申告が始まり、インボイスに登録した方は消費税の申告が加わる。制度を理解せず登録してしまった方の対応に不安が残る。

・（商工会）決算内容を見ると売上は上がっているが所得が下がっている事業者が散見しており、価格転嫁が不十分で労働生産性も低下していると感じる。

地元地域で社会的機能をどのように発揮・貢献できるかどうかというのが、小規模事業者が事業を継続していく鍵のように感じている。

・（中央会）昨年、新たな協同組合として労働者協同組合が法制化された。これから公的サービスが行き届かなくなった時に、働く場や住民サービスを担っていくのではないか。

・会津信用金庫では昨年12月にアウト・オブ・キツザニア in 会津に参加し、2日間で約

30名の小学生の職業体験を受け入れた。

R6年4月の新採用は8名（中途採用1名含む）となり予定数に近い採用となった。また、今年は人事担当者が採用活動を早めに実施している。

「しんきんカーシェアリング」の発表会を会津武家屋敷で行う。「会津西街道ご宿場印プロジェクト」の一環として会津地方の広域観光を進めるもので、観光客の二次交通手段として活用していただく。

・会津商工信用組合ではR5.12.3~4（日・月）の2日間、道の駅あいづ・湯川・会津坂下にて県下4信組共催で「常磐もの応援フェア」を開催。来場者は1日目2,034名、2日目1,373名と大盛況で出品商品のほとんどが完売した。

ポストコロナとなったが景況は依然として厳しい印象。特に飲食店、宿泊業、観光業はコロナ禍に最も厳しかった業種だが、コロナ前まで客足は戻らずそこに物価高騰や燃料・光熱費高騰が続き、厳しい経営状況となっている。

コロナ禍は倒産を防ぐため資金繰り支援が中心だったが、最近は経営改善支援、事業再生支援、再チャレンジ支援へと転換してきている。

### ③ 今後の未来会議について

・市の暮らし応援ガイドブックについて、市民・一般の方に周知することが大切なのではないか。

・自分事として地元の方にも興味関心を持ってもらうことは大事。（知らないと紹介できない。）

・企業側からも採用などの際にPRしていただけると大きなツールになる。

・例えば企業が他県の方を雇用して移住した場合に、市から給料を補助するとした方が使いやすい。

・企業活動にとっても人口減少社会とか労働者不足というのは、会津若松市の中小企業にとっても大きなテーマだと思う。テーマとしては人口減少社会における（雇用・生産性向上などの）好事例の企業について情報交換・講演を通してそれぞれが持ち帰ってどう普及するかとかが良いのではないか。

・人口減少の中でも何に絞るかというのはあるにしても、テーマとしては避けては通れないと思う。

・地域の企業が中心で何かやろうと動いた時に、行政としての母体は何をやっているのかというところに左右されるのではないかと考えていて、それぞれの活気ある地域の話を知りたいと思う。

・働くことに対してワクワクするとか面白そうだというのが+αでないと、残っていかないかもしれない。ただ企業経営者は売上げ増加やコスト削減を考えてしまうので、学生やこれから就職する人の意識と乖離してしまう。その歯車をうまく噛み合わせるようなテーマの話し合いを未来会議で出せば面白いのでは。

- ・乖離を明確にしてどう歩み寄るかというところは必要かもしれない。
- ・今の若い人たちは転職サイトに登録をしている。今より条件のいいところややりたい事を探している。
- ・企業と雇用される側の乖離を少しでも縮められるというような視点で話ができるとう人口減少というテーマもいいのかもしれない。
- ・既に取り組んでいる所もあるので、その状況や課題を聞いてみるというのもいいのでは。
- ・会津大学でいうと、学生課を通さず企業が直接学生の SNS 等で働きかけることが多く、学内で就職イベントを実施しても学生がほとんど来ない。地元企業との接点を作るのがますます難しくなっている現状。
- ・今は IT が要らない業界がないと思う。地元中小企業の困りごとを解決することにより、学生が実績として就職の際のアピールできるので、アルバイト兼キャリアづくりのためにという事で勧誘している。
- ・給料が高なくても残りたいという学生は結構いる、接点がないのでそもそも選択肢に入っていないという現状。
- ・人口減少という問題に対してどういう話を聞いていくかという事を絞れると。色々な所に話がいってしまうと話すだけで終わってしまう。
- ・例えば、人口減少社会における1つのテーマは「採用」、1つのテーマは「職場のルール作り」、「教育」とか、人口減少社会の下のサブテーマを作っていくと、それにより毎回の会議の議題にあげて議論をまとめていくというのはどうか。
- ・テーマ一つに対して時間が掛かりそうであれば継続してもいいし、誰かの意見を聞きたいとなれば、それを受けどういう方策がいいかを別途話し合う時間がないと勿体ない。
- ・人手不足といった時に、皆さんがどうい状況でどれくらい困っていてそれに対してどうい事をやっているのかという情報共有をした上で、だれを呼ぼうかという話をした方がいい。
- ・この会議の良いところとして急ぐ必要は特にないので、人手不足というテーマで会津若松の状況を共有した上で考えていく。